

まえがき

都には、国内でも有数の自然環境に恵まれた島々があります。

中でも、小笠原諸島は、本土部から 1,000km 南に位置し、島の誕生以来、一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島であり、偶然、島にたどり着き、定着した生物のみが、島で独自の進化を遂げてきました。そのため、小笠原諸島にしかない固有の生物が多く、独自の生態系が形作られています。

また、伊豆諸島でも、本土部と共通する種が見られる一方で、固有種も存在しています。そして、海洋性の鳥類の営巣地として重要であり、数多くの巨樹や亜高山性植物が見られる島があるなど、類まれな自然環境を有しています。

都は、これまで、小笠原諸島において、島民の方々や、NPO、村、国などと連携して、外来種対策等の自然環境の保全に取り組んできました。そして、平成 23 年 6 月にパリのユネスコ本部で開催された世界遺産委員会で、小笠原諸島は世界自然遺産に登録されました。また、小笠原諸島南島、母島石門一帯及び伊豆諸島の御蔵島で、東京都版エコツーリズムを推進し、貴重な資源を保護するとともに適正な利用を図ることを目的した取組も行ってきました。

しかし、生物の生息・生育空間の縮小や、外来生物による生態系のかく乱など、島しょ部の野生生物の生存は、引き続き脅かされています。

ここで取りまとめた「レッドデータブック東京 2014（島しょ部）」は、2011 年に公表した「東京都の保護上重要な野生生物種（島しょ部）～東京都レッドリスト～ 2011 年版」の解説版であり、希少種・外来種対策に携わる関係者の方々に、都の島しょ部に残された貴重な動植物の現状と、今後の対策を考える上で有益な情報を提供することを目的として作成しました。

今回、作成に当たり注力した点は、限られたスペースではありますが、東京都レッドリストに掲載した全種について保全に役立つ情報や写真を可能な限り収集・掲載したことです。島しょ部においては情報が十分蓄積されていない種や分類群もあるなか、充実した内容の解説版を作成することができました。これは、種ごとの解説の執筆や写真の提供等、多くの方々に御協力をいただいた結果です。ここに改めて深く感謝を申し上げます。

地域ごとに残された希少種の生育・生息状況を改善するため、ここにまとめた情報を多くの方々に御活用いただき、島しょ部における生物種の保全を通して、生物多様性の保全の一助となれば幸いです。

平成 26(2014) 年 3 月
東京都環境局

